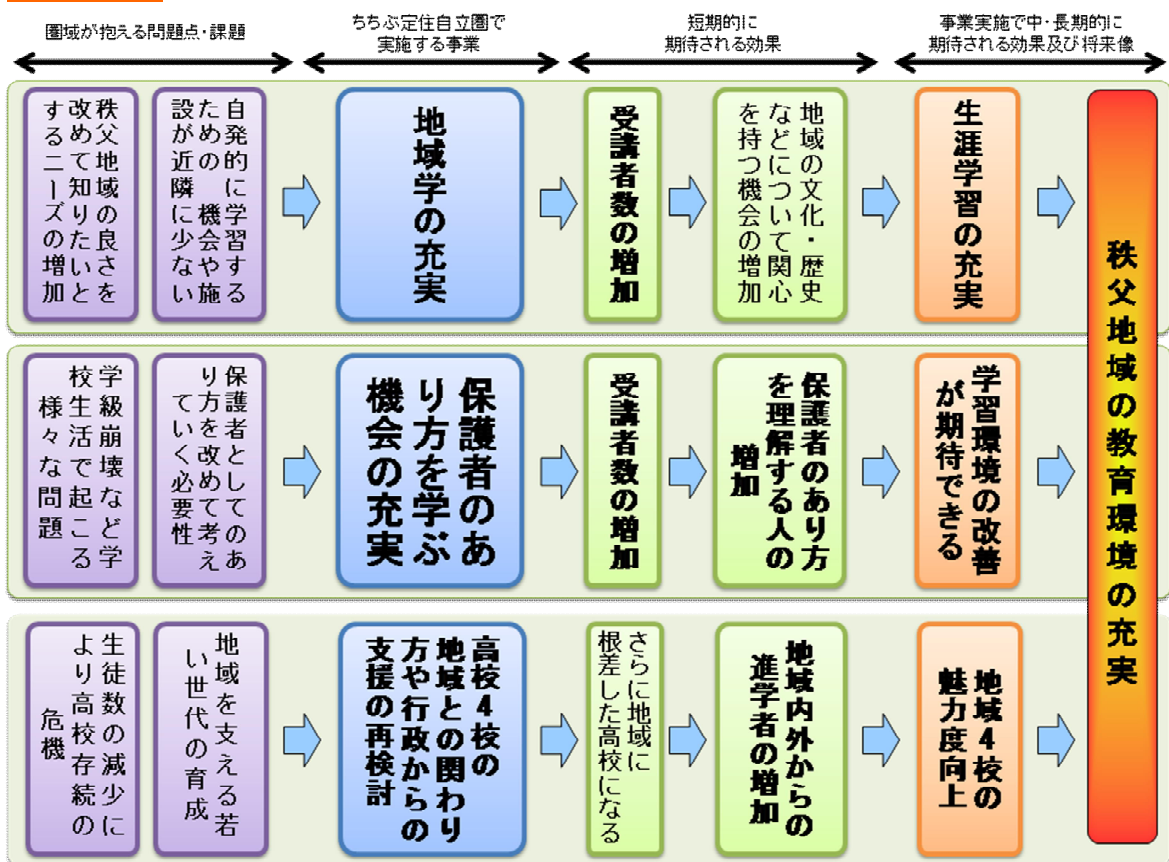


ウ 教育

○施策体系○

- (ア) 生涯学習の充実
 - ①地域学の企画及び実施
- (イ) 保護者の学習に関する事業の充実
 - ①保護者学習の企画及び実施
- (ウ) 高等学校と連携した地域振興
 - ①高等学校と行政の連携

○戦略図○



(ア) 生涯学習の充実

○現況と課題○

高学歴化の進行、余暇時間の増大、女性の社会参画及び高齢化社会の進展に伴い、住民の学習意欲はますます高まり、生涯学習に対する住民ニーズは多様化・高度化しています。そのような中で、多くの住民が芸術文化活動を積極的に行っており、その活動を支援して、その価値を高めるための施策を展開することも求められています。

また、秩父圏域は全国に誇れる自然と歴史に恵まれ、伝統文化が今もなお息づいています。秩父地域に住む人々が地域を知り、全国に情報発信するとともに、後世に伝えていくことが必要です。

現在、秩父市では郷土の文化や歴史などを学ぶ「ちちぶ学セミナー（基礎講座・専門講座）」を実施しています。専門講座の受講生には、翌年度の中央公民館の主催講座等において、講師役として研究の成果を講義していただき、受講生以外にも広く歴史文化の伝承を学ぶ機会として活用しています。

○今後の展望○

今後も秩父圏域での地域学の共同推進により、秩父の文化・歴史を学び、秩父の魅力や素晴らしさを地域の人に知ってもらうことで、まちづくりに活かす取組を構築していく必要があります。

このため、公開講座を充実させることにより、参加者が秩父圏域の文化・歴史などを学ぶ機会の提供、講師の人材育成に寄与することが見込まれます。

また、生涯学習施設の整備については、自治体の厳しい財政事情など現在の時代背景を考慮して、ファシリティマネジメントの手法を取り入れた公共施設のあり方を十分に検討し進めていきます。

○主要事業○

①地域学の企画及び実施

事業名	地域学の企画及び実施					28	関係市町名
事業概要	ちちぶ学セミナーに関する講座を秩父圏域に広げ、圏域の自然や歴史、伝統文化を継承する団体と連携しながら、地域学に関する講座を企画・実施する。					◆秩父市（歴史文化伝承館） ◆横瀬町（教育委員会） ◆皆野町（教育委員会） ◆長瀬町（教育委員会） ◆小鹿野町（教育委員会）	
成果	秩父圏域の自然・歴史・文化・産業等に関する講義を通じて、秩父圏域の現状と課題を深く理解することができる。						
関係市町の役割分担	秩父市は企画立案を行い、講座を実施するとともに広報及び受講生の募集を行う。各町は秩父市と協力して事業の企画立案を行うとともに、広報及び受講生の募集を行うなど事業実施に協力する。						
事業費 (千円)	R7	R8	R9	R10	R11	計	
	793 (455)	793 (455)	793 (455)	793 (455)	793 (455)	793 (455)	3,965 (2,275)
()内は、定住自立圏負担金以外の財源による事業費							
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし ※ 国・県補助金以外の財源として、受講料及び講義録頒布代金 455 千円						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
	R7	R8	R9	R10	R11	計	
市負担額	417	417	417	417	417	2,085	
各町負担額	94	94	94	94	94	470	

○取組の成果指標○

指標 1	ちちぶ学セミナー基礎講座の受講者率 (受講者数/募集者数)				
	R7	R8	R9	R10	R11
目標	100%	100%	100%	100%	100%
実績					
指標 2	ちちぶ学セミナー専門講座の受講者率 (受講者数/募集者数)				
	R7	R8	R9	R10	R11
目標	100%	100%	100%	100%	100%
実績					

(イ) 保護者の学習に関する事業の充実

○現況と課題○

核家族化が進み、人とのつながりが希薄となった現代社会において、これまで受け継がれてきた子育ての伝統的な知恵など、今日の保護者が保護者としての学びを十分に得られない環境が一般化しつつあります。

子どもたちが、心豊かに健全に育つために、子どもたちを取りまく周囲の大人たちの心が豊かである必要があります。しかし、仕事を持っている保護者が多く、毎日の生活の中で時間に余裕がないのが現状です。

○今後の展望○

1市4町それぞれの「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、親同士や親子同士の交流、家庭教育の重要性を見つめなおし、考えることができる「学びの場・機会」を提供してきましたが、引き続き、秩父圏域全体で子育てに対する負担や不安を解消することができるような環境を整備していく必要があります。

そこで、家庭教育のアドバイザーの積極的な活用を図るとともに、保護者の学習の普及・啓発事業を実施している団体の活動を支援して、子育て世代の集いの場や学習・情報共有の機会を作り、家庭教育を圏域全体に普及・啓発していきます。また、家庭教育の支援を行っている団体や人材があれば、その活用も検討するなど、利用者のニーズをとらえて、現状に合った事業の推進を図っていきます。

○主要事業○

①保護者への学習の企画及び実施

事業名	家庭教育の普及・啓発					29	関係市町名
事業概要	保護者への学習の普及・啓発事業を実施している団体の活動を支援するとともに、家庭教育のアドバイザーの活用を図り、圏域全体に家庭教育を普及・啓発する。						◆秩父市（教育研究所） ◆横瀬町（教育委員会） ◆皆野町（教育委員会） ◆長瀬町（教育委員会） ◆小鹿野町（教育委員会）
成果	圏域全体で、保護者や家庭の役割、子どもへの接し方等、家庭教育の在り方を学ぶことができる。						
関係市町の役割分担	各市町は、保護者への学習の普及・啓発事業を実施している団体の活動を支援するとともに、家庭教育のアドバイザーの活用について関係機関に呼びかける。						
事業費 (千円)	R7	R8	R9	R10	R11	計	
	200	200	200	200	200	1,000	
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
	R7	R8	R9	R10	R11	計	
市負担額	104	104	104	104	104	520	
各町負担額	24	24	24	24	24	120	

○取組の成果指標○

指標 1	家庭教育のアドバイザーの活用による講演会実施回数				
	R7	R8	R9	R10	R6
目標	50回	50回	50回	50回	50回
実績					
指標 2	家庭教育に関するイベント利用者数				
	R7	R8	R9	R10	R6
目標	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人
実績					

(ウ) 高等学校と連携した地域振興

○現況と課題○

秩父地域における公立高等学校は、秩父農工科学高等学校(1900年)、秩父高等学校(1907年)、小鹿野高等学校(1948年)、皆野高等学校(1966年)の4校があります。各学校は、立地や学科、学力レベルのバランスがとれており、中学校卒業者にとっては不可欠な学校となっています。

このような状況の中、埼玉県教育委員会では平成28年3月に「魅力ある県立学校づくりの方針」、平成30年4月に「魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて(再編整備の進め方)」、これに基づき令和4年10月に「魅力ある県立高校づくり第2期実施方策」を策定しました。この内容は、秩父高校と皆野高校を統合し、国際に関する学科及び普通科の併置校として、現在の秩父高校の場所に新校を設置するというものであり、現在、令和8年度の開校に向け準備が進められているところです。

なお、秩父地域における高等学校はいずれも入学志願者が年々減少しており、その存続が危ぶまれています。

○今後の展望○

秩父地域においても急速な人口減少が続いており、秩父・皆野新校、秩父農工科学高校、小鹿野高校の3校を現状のまま維持していくことは困難を極めるかもしれませんが、各市町では社会減の抑制、出生数の増加及び移住定住促進に向けた取組を積極的に行っているところです。

3校については、将来の地域を支える若い世代の育成にはなくてはならない学校であり、まちづくりの観点からも、地域の中で大きな役割を担っています。

そこで、1市4町と3校による検討の場を設け、地域との関わり方や行政としての支援方法等について議論し、相互の連携・交流を深めるとともに、各校の魅力向上につながる取組を行っていきます。

○主要事業○

①高等学校と行政の連携

事業名	高等学校と行政が協議する場の創出				30	関係市町名	
事業概要	高等学校と行政の意見交換を行い、連携して行う内容を決定、推進する。					◆秩父市（教育研究所） ◆横瀬町（教育委員会） ◆皆野町（教育委員会・企画財政課） ◆長瀬町（教育委員会） ◆小鹿野町（教育委員会・総合政策課）	
成果	高等学校と連携した地域振興策を展開することにより、圏域における高等学校の役割、重要性を再認識することができる。						
関係市町の役割分担	秩父市は、高等学校と行政の話し合いの場を設定する。秩父市と各町は、高等学校と連携した地域振興につながる具体的な施策を検討する。						
事業費 (千円)	R7 0	R8 0	R9 0	R10 0	R11 0	計 0	
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	該当なし						

事業名	高校魅力化プロジェクト				31	関係市町名	
事業概要	各高等学校とも、それぞれの特色を生かした更なる魅力向上に取り組み、秩父圏域内中学校からの入学希望者を増やすとともに、秩父圏域外からの入学希望者を呼び込むことにより、秩父圏域の活性化を推進する。				◆秩父市（教育研究所） ◆横瀬町（教育委員会） ◆皆野町（教育委員会・企画財政課） ◆長瀬町（教育委員会） ◆小鹿野町（教育委員会・総合政策課）		
成果	各高等学校の魅力向上及び地域の活性化につながる。						
関係市町の役割分担	秩父市が中心となって、各町ともに高等学校と連携し、高等学校の魅力アップ並びに地域の活性化に向けた取組を推進する。						
事業費 (千円)	R7 3,881	R8 3,881	R9 3,881	R10 3,881	R11 3,881	計 19,405	
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
	R7	R8	R9	R10	R11	計	
市負担額	2,037	2,037	2,037	2,037	2,037	10,185	
各町負担額	461	461	461	461	461	2,305	

○取組の成果指標○

指標 1	秩父地域内中学卒業者の秩父地域県立高等学校 4 校への進学率				
	R7	R8	R9	R10	R11
目標	61%	62%	63%	64%	65%
実績					
指標 2	秩父地域外からの秩父地域県立高等学校 4 校への入学者数				
	R7	R8	R9	R10	R11
目標	50 人	55 人	60 人	65 人	70 人
実績					

エ 産業振興

○施策体系○

- (ア) 滞在型観光の促進及び (イ) 外国人観光客の増加
 - ①圏域外に秩父圏域の観光を打ち出すための取組
 - ②サイクル関連イベントの充実
 - ③多様な観点からの圏域観光の取組
 - ④農山村交流体験の実施
 - ⑤外国人観光客の増加を目指した取組
- (ウ) 秩父まるごとジオパークの推進
 - ①「秩父まるごとジオパーク」の普及啓発
 - ②「秩父まるごとジオパーク」を推進するための人材育成
 - ③「秩父まるごとジオパーク」の圏域外へのアピール
- (エ) 圏域内企業の支援体制の充実
 - ①産学官連携事業等に対する支援
- (オ) 有害鳥獣対策の推進
 - ①広域的な有害鳥獣対策に対する支援
- (カ) 地域ブランドの確立と特産品の販売促進

(ア) 滞在型観光の促進 及び (イ) 外国人観光客の増加

○現況と課題○

秩父圏域は都心から約 80 km圏内に位置していながら、豊かな自然と古くからの歴史・文化が残っており、それを活かした観光スポット、秩父札所、祭など観光資源が豊富にあります。例えば、秩父夜祭や芝桜、長瀨ライン下りなどは、全国的にも有名な観光資源です。

また、首都圏へは西武鉄道、埼玉県平野部には秩父鉄道、皆野寄居バイパス、国道 299 号、山梨県には国道 140 号の雁坂トンネルを抜けてつながっており、安近短の観光としては最適の場所にあります。

現状では日帰り観光客が多く、また週末や大型連休に集中しているため、一年を通じた需要の平準化、とくに平日の集客が課題です。また観光客数はもとより、一人当たりの観光消費額を増やしていくことも重要です。

今後、地域間競争の時代の中で、秩父圏域が観光により地域の活力を維持するためにも、自治体単独ではなく、圏域で連携を強化して、地域一体となった観光政策を展開し、様々な可能性を模索していくことが必要です。

○今後の展望○

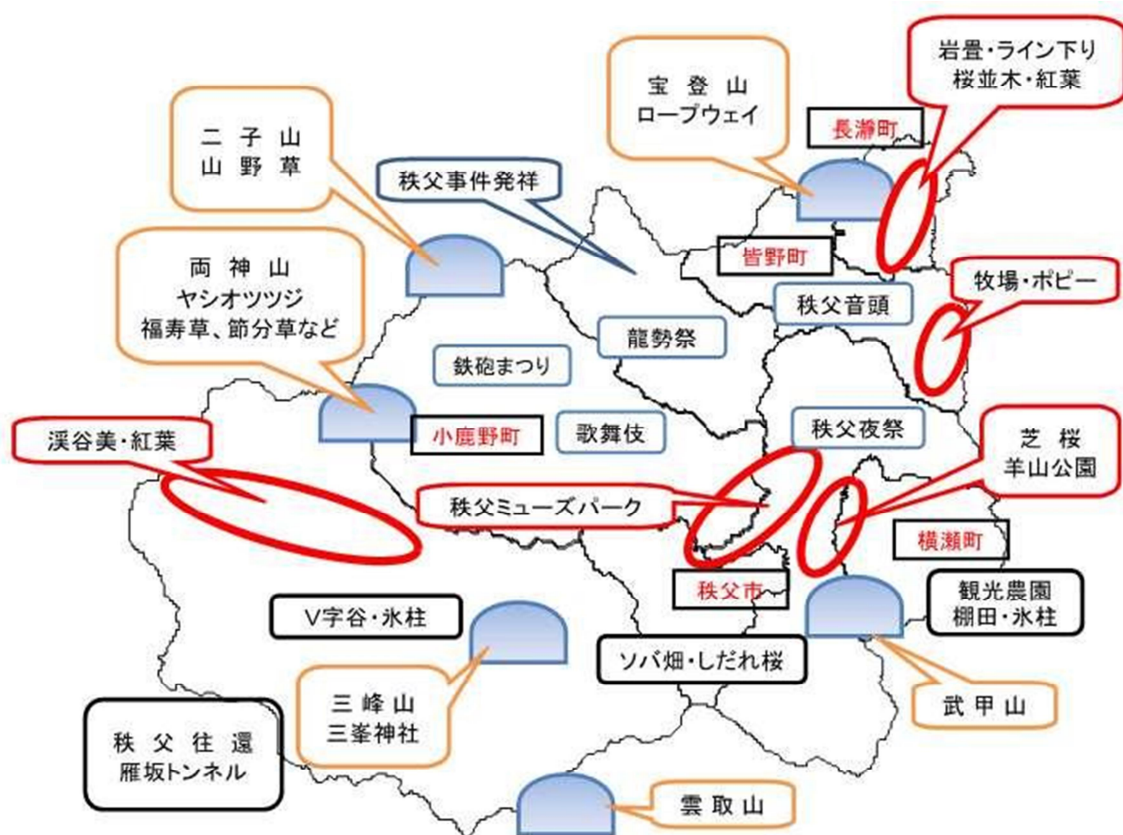
戦略的・効果的に秩父圏域の観光を売り出すために設立した「一般社団法人 秩父地域おもてなし観光公社」(平成 29 年 DMO 認定、令和 3 年度重点支援 DMO 認定)を中心に、引き続き連携を強化していきます。

着地型の旅行商品の造成や教育旅行の誘致のほか、各市町の観光資源を生かした地域内周遊や、平日の流入が見込めるインバウンド対応を推進します。

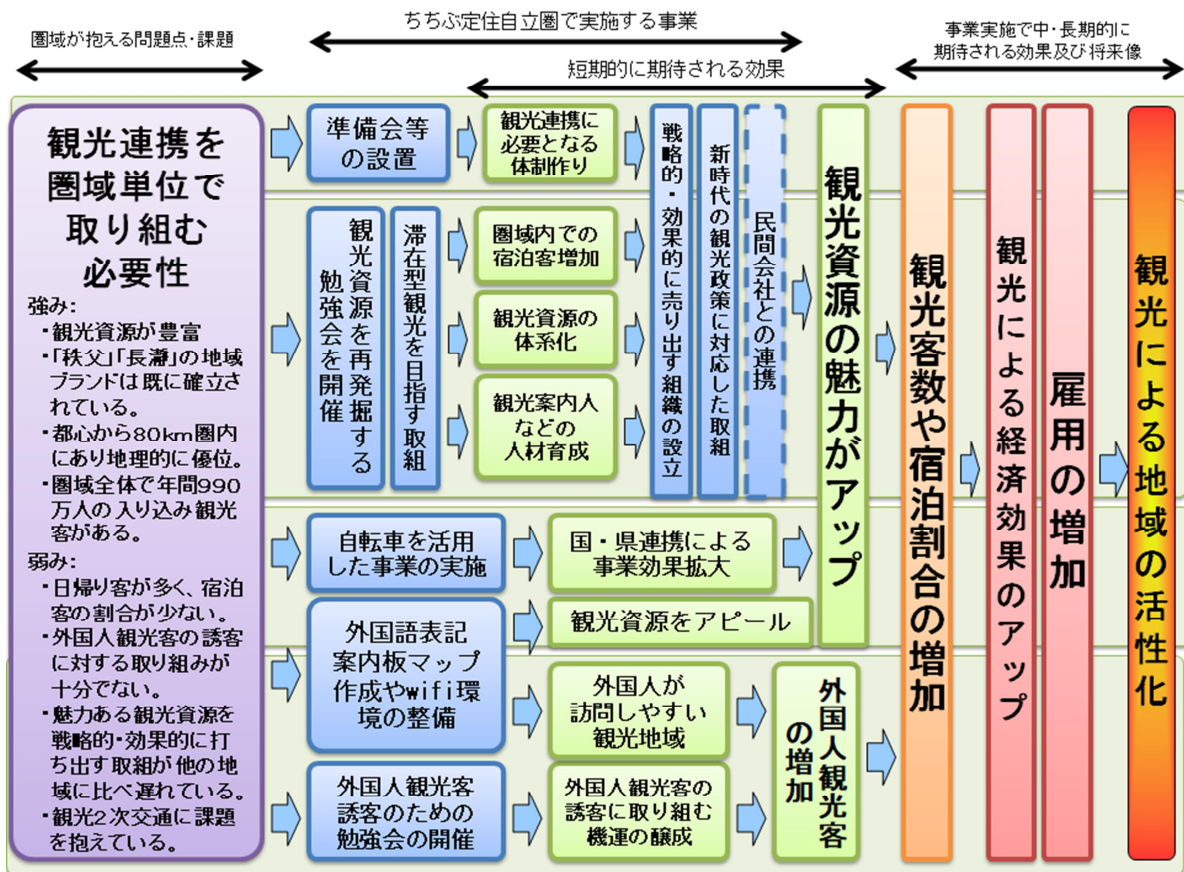
また、観光資源を効率的に活用するため、観光客の動向やニーズを分析するなど、デジタル技術を活用した観光DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進します。

さらには、観光庁が策定した「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」も参照し、観光地域づくりにサステイナブルな指標も組み入れながら、必要に応じて、国（観光庁）や埼玉県と連携して取り組むことにより、その効果を拡大することが期待されます。

秩父圏域内の観光資源



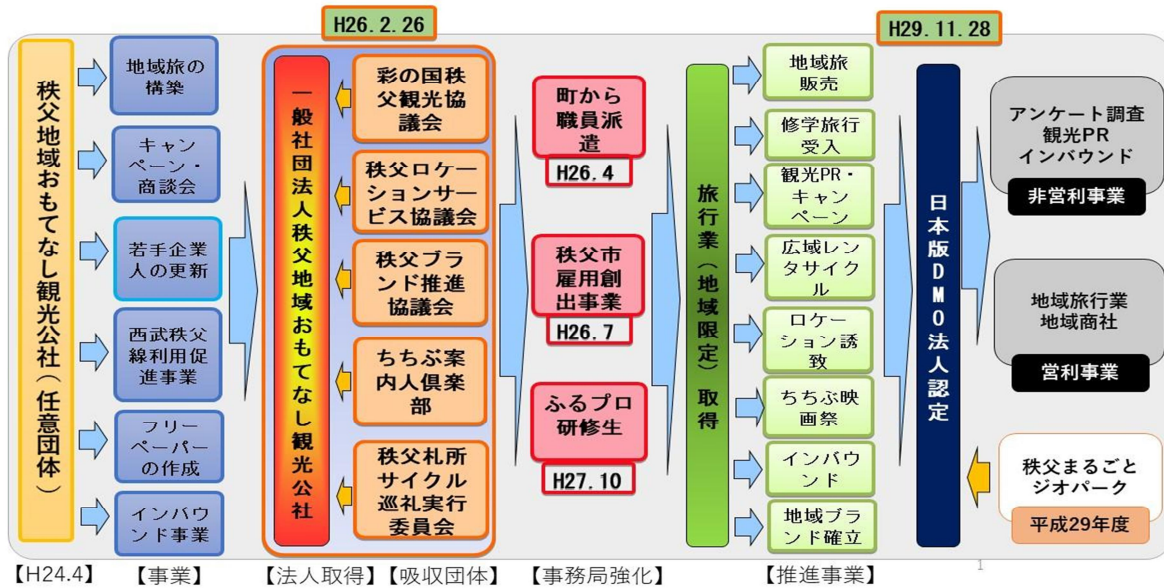
○戦略図○



○主要事業○

①圏域外に秩父圏域の観光を打ち出すための取組

事業名	観光連携組織体制の強化・確立					32	関係市町名
事業概要	<p>圏域の観光連携を推進する組織として設立し、「日本版DMO」法人に観光庁から認定された「一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社」を中心に、具体的な事業を実施するほか、1市4町の出向職員等で連携を強化し、圏域全体の観光PRはもとより、主催する着地型観光商品の造成や教育旅行の誘致を行う。</p> <p>平成29年度からは、秩父まるごとジオパーク推進協議会の事務局を受け、今後の旅行商品造成に活かしていく。</p>					<p>◆秩父市（観光課）</p> <p>◆横瀬町（振興課）</p> <p>◆皆野町（産業観光課）</p> <p>◆長瀬町（産業観光課）</p> <p>◆小鹿野町（まちづくり観光課）</p>	
成果	<p>観光庁が推進する「日本版DMO」として、組織強化することで、圏域をまとめ、秩父の観光がひとつのイメージで、観光地経営による地域活性化を着実に進めることができる。また、旅行業が必要な全圏域を活用したツアーの構築、イベントやキャンペーン、特産品の開発などが継続的にできる。</p>						
関係市町の役割分担	<p>観光公社に職員派遣を実施する。また、秩父市は観光公社の取りまとめを行い、各町はこれに協力する。</p>						
事業費 (千円)	R7	R8	R9	R10	R11	計	
	6,450	6,450	6,450	6,450	6,450	32,250	
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
	R7	R8	R9	R10	R11	計	
市負担額	3,382	3,382	3,382	3,382	3,382	16,910	
各町負担額	767	767	767	767	767	3,835	



事業名	着地型観光商品の造成・人材育成		33	関係市町名		
事業概要	<p>圏域の観光資源を売り出すための商品造成・販売を実施する。</p> <p>魅力的な観光資源のブラッシュアップとともに着地型観光商品にして、HPを中心に販売する。外国人に対応した商品数も増やしていき、その後販売先も効果を検証し、インターネット販売や旅行会社を中心に拡充していく。</p> <p>また、観光ガイドを育成し、より地域の魅力を引き出した商品も販売していく。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ◆ 秩父市 (観光課) ◆ 横瀬町 (振興課) ◆ 皆野町 (産業観光課) ◆ 長瀬町 (産業観光課) ◆ 小鹿野町 (まちづくり観光課) 		
成果	<p>圏域の魅力的な観光資源を商品にして販売することで、PRはもとより、滞在時間の増加や観光消費額のアップに繋がる。</p> <p>また、ガイドにより観光客の満足度向上やリピーターの獲得も見込める。</p>					
関係市町の役割分担	<p>観光公社を中心に実施する。1市4町はこれに協力する。</p>					
事業費 (千円)	R7	R8	R9	R10	R11	計
	0	0	0	0	0	0
国県補助事業等の名称・補助率等	<p>該当なし</p>					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	<p>該当なし</p>					

②サイクル関連イベントの充実

事業名	自転車を活用した事業				34	関係市町名			
事業概要	<p>環境にやさしく、健康増進に資する自転車を鉄道、バス、あるいは自家用車で秩父圏域に訪れた後の二次的交通手段として位置づけ、サイクリングを楽しみながら圏域の魅力をゆっくり堪能できるレンタサイクル事業を実施する。</p> <p>各市町に1か所以上のレンタサイクルステーション(貸出・乗捨て場所)があるが、利用者のニーズ等により、乗捨て場所の拡充など、利用しやすい環境も整備していく。</p> <p>また、各種サイクルイベントや埼玉県等の自転車関連事業と連携を行う。</p>				◆秩父市(観光課)	◆横瀬町(振興課)	◆皆野町(産業観光課)	◆長瀬町(産業観光課)	◆小鹿野町(まちづくり観光課)
成果	<p>レンタサイクル事業や各種サイクリングイベントを充実することにより、自転車による観光を振興する。</p>								
関係市町の役割分担	<p>観光公社を中心に実施する。1市4町はこれに協力する。</p>								
事業費(千円)	R7	R8	R9	R10	R11	計			
	0	0	2,500	2,500	0	5,000			
国県補助事業等の名称・補助率等	<p>該当なし</p>								
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方									
	R7	R8	R9	R10	R11	計			
市負担額	0	0	1,312	1,312	0	2,624			
各町負担額	0	0	297	297	0	594			

③多様な観点からの圏域観光の取組

事業名	圏域の様々な資源を活用した観光誘客事業			35	関係市町名	
事業概要	<p>圏域には自然や祭りをはじめとする様々な観光資源がある。これらを複合的に連携させることにより、多様な観光誘客策を進め、地域の活力を持続させる。また、情報発信や地域の特色を生かした滞在型観光の仕組みづくりと同時にブランド確立も進め、日本版DMOとして設定した必須KPIの調査をしながら、その結果を基に、満足度や地域商社機能による観光消費額の拡大など地域の活性化につなげられる事業を積極的に展開していく。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ◆秩父市（観光課） ◆横瀬町（振興課） ◆皆野町（産業観光課） ◆長瀬町（産業観光課） ◆小鹿野町（まちづくり観光課）
成果	<p>必須KPIを設定して調査を実施し、事業者等を含めた圏域全体が、一体となって観光客増加に向けた事業を行うことは、効果的であり、圏域外への強力なアピールになることから、誘客にもつながる。</p>					
関係市町の役割分担	観光公社を中心に実施する。1市4町はこれに協力する。					
事業費 (千円)	R7	R8	R9	R10	R11	計
	4,920	4,920	4,920	4,920	4,920	24,600
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
	R7	R8	R9	R10	R11	計
市負担額	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	12,900
各町負担額	585	585	585	585	585	2,925

④農山村交流体験の実施

事業名	交流体験事業の実施					36	関係市町名
事業概要	<p>平成24年度から、埼玉県の「教育旅行受入推進事業」と連携も図りながら、平成26年度から本格的な受入れを行ってきた。</p> <p>引き続き秩父地域おもてなし観光公社が受け入れ窓口となり、民泊を活用した修学旅行誘致の事業展開をしていく。受入民家の拡充やプログラムの整備なども行い、海外の学校も対象とした圏域での継続事業として確立する。</p>					<p>◆秩父市（観光課、農業政策課）</p> <p>◆横瀬町（振興課）</p> <p>◆皆野町（産業観光課）</p> <p>◆長瀨町（産業観光課）</p> <p>◆小鹿野町（まちづくり観光課）</p>	
成果	<p>平成26年度からは本格的な受入を開始し、今後、体験プログラムをビジネスモデルとして確立させることにより、交流促進だけでなく観光資源として売り出すことができ、将来的に観光客の増加が期待できる。また、埼玉県と連携して外国の学校も受け入れることで、外国人誘客にも繋がる。</p>						
関係市町の役割分担	<p>観光公社を中心に実施する。1市4町は公社と協力して、受入民家の募集、プログラムの提供など事業実施に協力する。</p>						
事業費 (千円)	R7	R8	R9	R10	R11	計	
	400	400	400	400	400	2,000	
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
	R7	R8	R9	R10	R11	計	
市負担額	208	208	208	208	208	1,040	
各町負担額	48	48	48	48	48	240	

⑤外国人観光客の増加を目指した取組

事業名	外国人観光客誘客促進事業					37	関係市町名			
事業概要	<p>圏域内に増加してきた外国人観光客に対応するため、観光関係者を中心に事業検討会を開催する。同時に、西武鉄道や秩父鉄道等との事業協力や誘客宣伝を実施する。</p> <p>また、住民参加型の外国人観光案内ガイドの養成を行うなど、外国人観光客の受入体制の充実を図る。</p>					◆秩父市（観光課）	◆横瀬町（振興課）	◆皆野町（産業観光課）	◆長瀬町（産業観光課）	◆小鹿野町（まちづくり観光課）
成果	観光ガイド等を整備することにより、外国人観光客に優しい地域となり、地域全体として外国人観光客の増加に向け取り組むことができる。									
関係市町の役割分担	観光公社を中心に実施する。1市4町はこれに協力する。									
事業費 (千円)	R7	R8	R9	R10	R11	計				
	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	16,000				
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし									
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方										
	R7	R8	R9	R10	R11	計				
市負担額	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	8,400				
各町負担額	380	380	380	380	380	1,900				

○取組の成果指標○

指標 1	観光客満足度				
	R7	R8	R9	R10	R11
目標	83.5%	84.0%	84.5%	85.0%	85.0%
実績					
指標 2	リピーター率				
	R7	R8	R9	R10	R11
目標	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%
実績					
指標 3	観光消費額				
	R7	R8	R9	R10	R11
目標	6,200 円	6,400 円	6,600 円	6,800 円	7,000 円
実績					
指標 4	総宿泊者数				
	R7	R8	R9	R10	R11
目標	460,000 人	470,000 人	480,000 人	490,000 人	500,000 人
実績					